

令和 5 年 6 月 24 日

大豆情報 第 1 号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

～7月20日までに播種を終わらせましょう～

5月29日に梅雨入りしており、降雨の影響が気になるところですが、過去5年間の気象データを見ると6月5半旬、7月1半旬、7月4半旬頃は降雨が少ない傾向にあり、播種作業のねらい目と思われます。

福岡管区気象台の6月15日発表の1か月予報は下の表のとおりです。大豆の播種適期に当たる7月上旬～中旬にかけては、曇りや雨が多くなると予想されています。播種の前に、できるだけ周囲溝を設置し、あらかじめ排水口とつなげておきましょう。

(1 週目) 6/17～23	(2 週目) 6/24～6/30	(3～4 週目) 7/1～14
期間のはじめは、高気圧に覆われて晴れる日もありますが、その後は梅雨前線や湿った空気の影響を受けやすいため、曇りや雨の日が多いでしょう。	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

大豆栽培では、「適期に播種」することが重要です！

「ちくしB5号」は6月下旬からの早播きも可能です。早めに作業計画を立てて、機械の点検、種子消毒などの準備をし、効率的な播種作業に努めましょう。

速やかに播種するためには、部分浅耕一工程播種を行うか、これから耕起する場合は、播種直前に耕起を行うようにしましょう。また、播種直後の冠水による出芽不良を避けるため、排水の良いほ場から順に播種するようにし、大雨が予想される場合は、降雨の1日前には播種を中断してください。冠水したほ場は、できるだけ早い排水をこころがけましょう。

1. 土づくりと施肥

★土づくりと施肥体系の見直しによって、高品質・高収量の大豆づくりをめざしましょう。

★問題点・・・JAむなかた管内の土壌は、有効態リン酸、カリ及び腐植（有機物）が少ない傾向。

★対策

①堆肥の施用、わらすき込みなどにより、根粒菌の活性化や地力向上を図りましょう。

②PKC30号（30kg/10a）または塩化カリ（15kg/10a）や粒状ようりん（20kg/10a）の施用により、リン酸とカリウムの供給に努めましょう。

③地力の低下しているほ場や、遅まきほ場では、大豆化成550（30kg/10a）を使用して下さい。

2. 播種

播種時期	条間	株間	10a 当り播種量	播種深度
6月下旬～7月10日	70cm	25～20cm	3～4kg	●基準 3cm 土壌水分が多い →浅く 土壌水分が少ない →やや深く (5～6cm)+鎮圧
7月11日～20日	70cm	20～15cm	4～6kg	
7月21日～31日 (遅播きの場合)	70～50cm	15cm	8kg	

3. 種子消毒

キヒゲン

乾燥種子重量の1%粉衣 (種子10kgに薬剤100g)

キヒゲンR-2フロアブル

乾燥種子重量の2%塗沫 (種子10kgに薬剤200ml)

4. 雑草防除

★ホソアオゲイトウ、ホオズキ多発ほ場の防除体系例

大豆播種後出芽前
(7月上中旬)

大豆2～4葉期
(7月下～8月上)

大豆3～5葉期
(8月上中旬)

大豆6～8葉期
(8月中旬)

ラクサー乳剤
+フルミオWDG
全面土壌散布

アタックショット乳剤
※雑草茎葉散布
又は全面散布

中耕・培土

バスタ液剤
畝間散布

※ アタックショット乳剤は散布後、必ず薬害(一過性の葉の黄化症状)が発生

★アサガオ類多発圃場の防除例

大豆播種後出芽前
(7月上中旬)

大豆2葉期
(7月下旬)

大豆3～5葉期
(8月上中旬)

大豆6～8葉期
(8月中旬)

サターンバアロ乳剤
+フルミオWDG
全面土壌散布

大豆バサグラン液剤
※雑草茎葉散布
又は全面散布

中耕・培土

バスタ液剤
畝間散布

◎使用薬量、使用時期等は、こよみを参考にしてください。

◎稲に対する薬害があるので、水田に隣接している場合は飛散に注意して下さい。

クリアターン乳剤は、できるだけ播種当日に散布をし、遅くならないように注意して下さい。

5. ネキリムシ類の防除

夜に幼虫が地表に現れ、大豆幼根を地表付近で切断します。

〔対策〕:ネキリエースKを播種時～本葉2葉期に10a当たり3kg土壌表面株元処理します。

※誘引殺虫剤なので被害が発生してから散布して下さい。

施肥、生育期除草剤等については、大豆ごよみを参照下さい。